

[取組主体]

名 称 いなべ市（旧藤原町）
取組の範囲 いなべ市（藤原町地区）
開 始 年 度 平成13年度

[補助事業]

交 付 主 体 県
補助事業名 生ごみ減量化促進事業、廃食用油リサイクル事業

1 取組目的と概要

（目的）

廃食用油をバイオディーゼル燃料化して利用することで、環境負担の軽減と資源の有効利用を図っている。

（概要）

いなべ市（旧藤原町）では、同市藤原町の中里小
学校の学習発表会で、河川の汚れにより水棲生物が
減少している問題が発表されたことをきっかけに、廃
食用油が河川に流出することを防止するため、同市農業公園内にバイオディーゼル
燃料精製装置を設置し、平成13年6月から稼働している。

市内の一般家庭などから回収された廃食用油は、天ぷらカスなどの不要物を除去
し、メタノールと水酸化カリウム（触媒）を加え化学反応を起こし、バイオディー
ゼル燃料を精製している。

精製したバイオディーゼル燃料は、同市のごみ収集車や同公園内で使用する建設
重機、トラック等の燃料として使用している。

なお、バイオディーゼル燃料は製造工程での人件費を含んだ1ℓ当たりの生産コ
ストは67.7円（回収の人件費や容器の購入等は含まず）で、軽油の販売価格に比べ
て安くなっている。



< - 処理施設の外観 - >

2 取組の効果

（効果）

同市では、13年度は一般家庭のみから年間約10kℓの廃食用油を回収していたが、
16年度現在は毎月2回、同市藤原町内の70か所あるリサイクルごみステーションの
ほか、同市北勢町、大安町内の小・中学校11校と市内の飲食店20軒から回収してお
り、回収量は年間約24kℓと大幅に増加し、同取組が地域に浸透している。

同市藤原町内では、各戸に廃食用油を回収する4ℓのポリタンクが配置され、廃
食用油を排水溝から下水に流れることがなくなり環境負荷が軽減されている。

また、小学生による施設の見学等もあり、環境学習にも役立っているほか、新聞、
テレビ等マスコミから取材を受けており、バイオディーゼル燃料の宣伝効果もあが
っている。

3 現在の課題と今後の展開方向

（課題）

同取組は、15年12月の町村合併による「いなべ市」が発足する以前の旧藤原町
で始められた取組のため、取組の範囲が旧藤原町に留まっていることが課題である。

（展開方向）

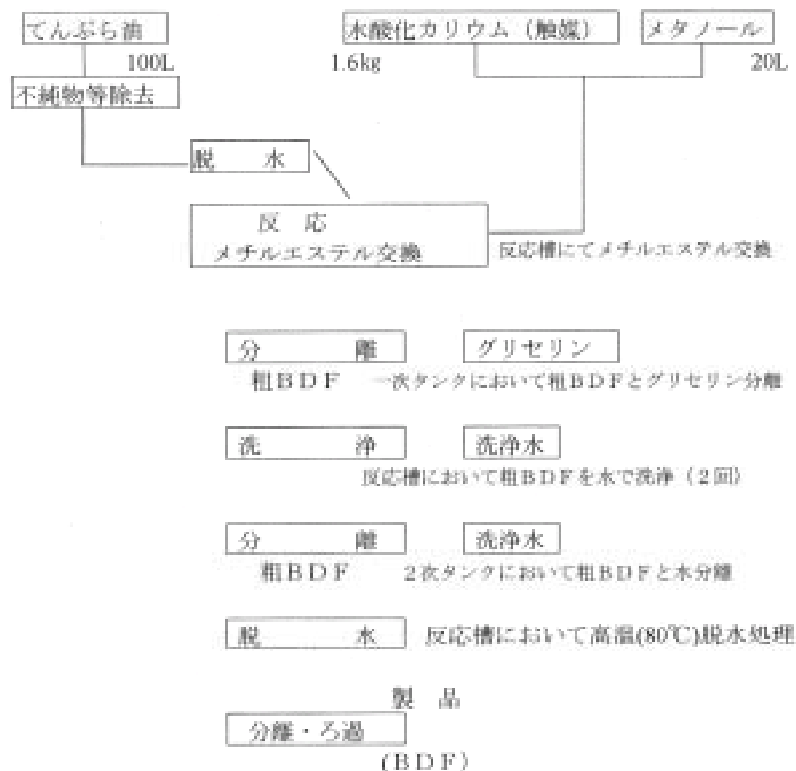
同市の一部の取組となっているが、回収を行っている地域の住民から同取組は好
意的に受け入れられていることから、今後、同市内全域の家庭からの回収を目指し
ていく。

「農業公園内でバイオディーゼル燃料を利用」の施設概要

施設名称	廃食用油再生センター	設置主体	いなべ市
運営主体	いなべ市	施設整備費	11,367千円
主な設備	プラント、タンク、貯蔵庫。	稼働状況	1日1回6時間処理 200日/年

【施設のシステムフロー】

てんぷら油フロー図



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発 生 源	距離	発 生 量	収集・運搬方法	施設処理能力
廃食用油	いなべ市各戸 （旧藤原町内）	10km	70箇所 2回/月	リサイクルごみステーション 回収車	100 ℓ / 日
	いなべ市内小中学 校（ 旧大安、北 勢町内）	20km	11校 各戸、学校飲 食店、合計 24,000 ℓ / 年	回収	
	いなべ市内飲食店	20km	20軒	回収	
再生バイオマス名	生 産 量		再生バイオマスの利活用先		
バイオディーゼル燃料	24,000 ℓ / 年		いなべ市梅林公園内で使用する重機の燃料		
			ごみ収集車の燃料		